

# 平成30年度儲かる農業ステップアップ事業 実施状況レポート 目次



テーマ	事業主体名	市町村名 (所管事務所)	ページ
「花園牛」のさらなる飼養頭数の増頭を目指して	農事組合法人 華川牧場	北茨城市 (県北)	1
新品目導入による所得向上を目指して	株式会社 草木ファーム	高萩市 (県北)	2
さらなる収量の増加と所得増進を目指して ～トマト促成栽培における施設園芸環境制御の取り組み～	村上 隼人	笠間市 (県央)	3
栽培から加工・販売まで一気通貫で対応できる 農園を目指して	緑と風の農園	行方市 (鹿行)	4
松生産者が開催する松飾りギャラリー、ワークショップ	全日花菜	鹿嶋市 (鹿行)	5
環境データ管理によるみつばの品質向上を目指して	株式会社 みずは	土浦市 (県南)	6
機械化一貫体系によるじゃがいも大規模経営の 確立を目指して	齊藤 正義	阿見町 (県南)	7
新品目導入による収益性向上と農業研修機関としての PR強化	株式会社 菊地農園塾	常総市 (県西)	8
経営の安定化・所得向上に向けた自社米のブランド化	株式会社 中田農園	坂東市 (県西)	9

# 「花園牛」のさらなる飼養頭数の増頭を目指して ～「農事組合法人華川牧場」の取組み～

## 事業者情報



**事業主体名** 農事組合法人 華川牧場  
**代表者名** 小野 真太郎  
**活動地域** 北茨城市  
**経営概要** 飼養頭数 800頭(平成30年)  
 出荷頭数 317頭(平成30年)  
 従業員数 10名  
**活動内容** 和牛の繁殖から肥育までの一貫経営。  
 肥育用素牛は外部導入も行き、主に常陸農業協同組合を通じ「花園牛」のブランド名で東京市場へ出荷を行っている。  
 堆肥を散布して育てた飼料用稲を混合粗飼料の材料とし、地域の稲作農家との耕畜連携に取り組んでいる。

## 取組概要

フィーダーホッパー付  
フォークリフト導入により  
効率的な作業体系を構築し  
和牛の飼養頭数を増頭させる  
取組



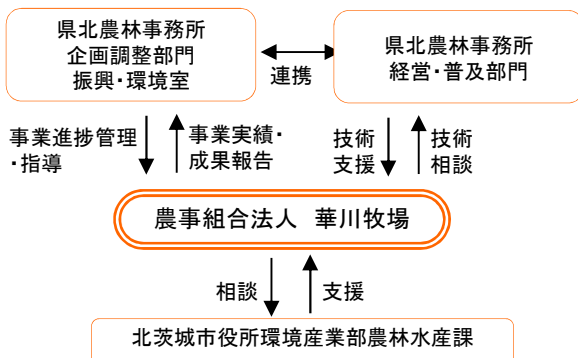
華川牧場では、かくはん機で混合した粗飼料をトラックの荷台に移し替え、各給餌場所へ移動し、運転席から荷台に移ってフォークを使って人力で飼料を入れる容器に給餌する作業を毎朝行っています。しかし、粗飼料は重く、人力では少量ずつしか投入できないため、給餌に時間がかかるだけでなく、作業への負担も大きくなっており、これが原因で一定時間内に給餌できる頭数に限度が生じ、肥育頭数を大きく増やせない理由の一つとなっていました。

そこで、レバー操作で給餌が行えるフィーダーホッパー付フォークリフトを導入し、給餌時間の短縮と作業にかかる負担を大きく軽減することで、一定時間に給餌できる頭数を増やし、肥育頭数増頭を行います。5年後までに肥育用素牛の年間導入頭数を現状よりも50頭増やすとともに、現在110頭の繁殖用雌牛を150頭へ増頭することで、所得の向上を目指します。

## 実施状況

- 平成30年7月28日  
導入農家での研修  
導入効果の聞き取り及び操作研修を行いました。研修により華川牧場へ導入時の注意事項(走行速度とレバー操作により一定の給餌を行うこと、走行ルート等)、検証事項(短縮時間、負担軽減効果、費用対効果等)についてまとめることができ、今後の取組の参考となりました。
- 平成30年10月29日  
給餌作業への導入  
フィーダーホッパー付フォークリフトにより肥育育成牛への給餌を行いました。作業時間が60分から40分となり、作業時間を3割削減することができるのと同時に、作業負担を大きく減らすことができました。今後は更なる効率化のため①牛舎構造の改良、②運転技術の向上等、効率的な作業体系の構築に取り組めます。

## 支援体制



導入農家での研修



給餌作業への導入

## 事業者のひとこと

近年の子牛相場の高騰により、子牛を買うことができず、飼養頭数が減り、出荷頭数が減ってしまうことがあります。そうすると、消費者に銘柄牛である「花園牛」を安定供給することができず、ブランドを守ることができません。

子牛高を契機とし、経費削減等、様々な生産効率向上に取り組んでおり、今回のフィーダーホッパーは作業時間の短縮、人への負担軽減によりさらなる増頭につなげることができます。効率化により、繁殖用雌牛を増頭し、自家生産子牛を増やし、安定的に「花園牛」を消費者に届け、ブランドを守っていきたく考えています。

## 新品目導入による所得向上を目指して ～(株)草木ファームの取組み～

### 事業者情報



事業主体名 株式会社草木ファーム  
 代表者名 鈴木 一郎  
 活動地域 高萩市  
 経営概要 飼養頭数 100頭(平成30年)  
 出荷頭数 45頭(平成30年)  
 飼料用稲 20ha(平成30年)  
 従業員数 6名  
 ※平成28年6月に法人化  
 活動内容 繁殖和牛経営  
 飼料用稲の栽培と受託作業  
 混合飼料の生産販売(TMRセンター)  
 堆肥の販売  
 ※自社の堆肥は、飼料用稲の栽培に活用しています(耕畜連携)。

### 取組概要

行者にんにくの新規導入による農閑期の人材活用と繁殖和牛経営で生産された堆肥の有効活用に関する取組



行者にんにくは、繁殖和牛経営で出される堆肥を有効活用できるとともに、収穫時期が田植え期以降のため、農閑期の人材の有効活用を行うことができます。

草木ファームでは、繁殖和牛経営に加え、行者にんにくの新規導入を行うことで、所得向上による和牛経営の安定化に取り組みます。

また、この地域では、耕作放棄地が年々増加しているため、耕作放棄地を整地した土地に行者にんにくを定植することで耕作放棄地を減少させていきたいです。

行者にんにくは希少価値が高く、高値で取引されるため、将来的には地域の農業者に栽培方法を指導し、行者にんにくの普及を行い、高萩市高岡地区全体の所得向上に努めます。

### 実施状況

- 平成30年10月15日  
視察研修の実施

行者にんにくの栽培技術を学ぶため、宮城県の先進農家で研修を行いました。研修により収穫時期の調整等栽培上の注意点を理解することができ、今後の取組の参考となりました。

- 平成30年10月22日～25日  
行者にんにくの定植

研修をもとに、行者にんにくの定植を行いました。ほ場には自社で生産した堆肥を活用しました。田植え後の5月に、定植した行者にんにくの初収穫を行い、花貫物産センター、里美生産物直売所で試験販売を行う予定です。

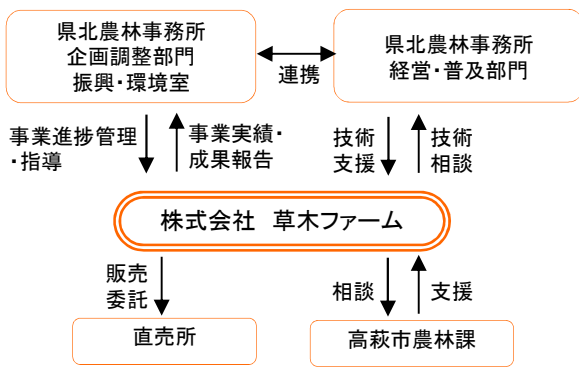


研修先ほ場の行者にんにく



行者にんにくの定植

### 支援体制



### 事業者のひとこと

主に繁殖和牛経営を行っていますが、堆肥の有効活用と自ら飼料を作りたいという思いから、コントラクターとなり飼料用稲の栽培、受託作業を行っています。今回は、農閑期の人材と堆肥を活用するため、行者にんにくの栽培をはじめました。行者にんにくの収穫後は、醤油漬け、味噌漬け、キムチ漬けに加工し、生だけでなく加工品として販売したいと考えています。行者にんにくは軽量で、栽培に手間がかからず、高齢の人でも生産できる品目です。将来は、地域で広く栽培できるようにし、中山間地域の特産品となるようにしたいと考えています。



## さらなる収量の増加と所得増進を目指して ～トマト促成栽培における施設園芸環境制御の取り組み～

### 事業者情報



事業主体名 村上 隼人  
 代表者名 上記に同じ  
 活動地域 笠間市  
 経営概要 トマト 37a  
 小松菜 20a

#### 活動内容

- ①父の代より、40年程前から土耕トマト栽培を始め、約20年前から養液栽培に変更して現在に至る。
- ②約5年前にモニタリングの装置を導入し、その後炭酸ガス発生装置や、ミスト装置を導入し更なる増収を図っている。
- ③将来的には、ICTを活用した最先端の制御盤なども導入したいと考えている。

### 取組概要

環境測定装置と遮光カーテン（スクリーン）を併用したハウス内の日射量の制御によるトマトの単収増加効果の検証



トマトの生育に良い環境を保ち、さらなる高収量を図るためには、春から夏にかけての高温時期の遮熱対策、冬場の保温および湿度制御が必要です。

スクリーンを導入することにより、優れた遮熱性で夏場の温度が低下し、トマトの呼吸が安定するため、ストレスが低減できます。

また、高い保温効果により、冬場は重油代の節約につながり、光熱費削減の面でのメリットが見込めます。

湿度をコントロールすることにより、病気発生の抑制も期待できます。

環境測定機器でデータを収集・分析し、スクリーン導入による効果を検証し、増収につながる管理方法の確立を目指します。

検証によって得た成果の普及を目指し、地域の生産者を対象とした現地検討会を開催します。

### 実施状況

- 平成30年7月10日 ～8月5日 スクリーン設置
  - 平成30年9月11日 データ測定開始
  - 平成30年11月20日 現地検討会の開催
- 笠間地域農業改良普及センターの協力の下、スクリーンを設置したハウス内で現地検討会を行いました。

参加した地域のトマト生産者4名にスクリーンの設置状況の見学をしてもらうとともに、既に導入している環境測定装置の測定結果をパソコンでチェックすることにより、トマトの栽培に最適な環境を理解しながらハウス内環境を管理できることを説明しました。

また、参加者4名とは、環境制御技術以外にも、葉かきやマルハナバチの使用方法等についても議論を交わしました。



現地検討会の様子

### 支援体制

県央農林事務所笠間地域  
農業改良普及センター

地域促成栽培トマト生産者

相談・  
成果報告

支援

現地  
講習会

情報交換

村上隼人

### 事業者のひとこと

このスクリーンを導入したメリットとして高い保温性があり燃料費の削減につながります。また、透湿性が優れているため夜間の飽差管理や除湿による病気の予防にもつながります。さらに、春先から初夏には遮熱効果で焼けや高温の防止そして散乱光による光合成の促進も期待できます。

これからさらなる高収量を目指して頑張りたいと思います。



ハウスで収穫したトマト  
(収穫日：1月15日)

## 栽培から加工・販売まで一気通貫で対応できる農園 を目指して ～“緑と風の農園”の取組み～

### 事業者情報



事業主体名 緑と風の農園  
代表者名 高柳 秀樹  
活動地域 行方市  
経営概要 米(特別栽培)1.4ha  
トマト(特別栽培)3.0a

#### 活動内容

- 6次産業化された農業
- ① 水田稲作およびハウスでのトマト栽培
  - ② 農産物の加工(糎, 塩糎, トマトソース)
  - ③ 直接販売(直売, ネット通販)
  - ④ 農業体験

### 取組概要

トマトと甘酒を使った新たな商品の開発とそれらを含む農産加工品のネット販売による全国ブランド化に向けた取組



農園で製造・販売中のトマトソース「トマト塩糎」に、新商品「トマト甘糎」を加えてトマト・糎シリーズの商品系列を拡大し、売上げ・利益の拡大を図ります。

初めて体験する新商品に手を出したくなるパンフレットの作成や、CookPad農園キッチンページにレシピの掲載をアップして、ダウンロード数による人気レシピの絞り込みや評価やアイデアを収集して改良と新商品開発を進めます。

販路開拓では、「トマト塩糎」ブランドと抱合せて、マルシェやフェスティバルなどのイベントを通じて地元ユーザーへ浸透させ、ネット通販固定客を中心に新商品の試作・テスト販売・評価分析を行って全国的に認知度を上げます。

また、海外ユーザ開拓のために、インバウンドイベントでの試食・販売や農園イベントへの招待活動も進めます。

### 実施状況

- 平成30年9月18日

日暮交流会で試食会を行いました。



行方焼酎と新商品による新カクテルで試食会を行いました。芋焼酎と甘酒の独特の香りと甘さの相性が良く、とても飲み易いなどの評価が得られました。(40名が試飲)



一方で、糎粒の沈殿などの課題が見つかったため、溶ける糎など工夫することにより飲みやすくして、ビール割などにも用途を広げて販売額の増加につなげていきたいです。  
\*写真はメキシコ人女性や駐在員など

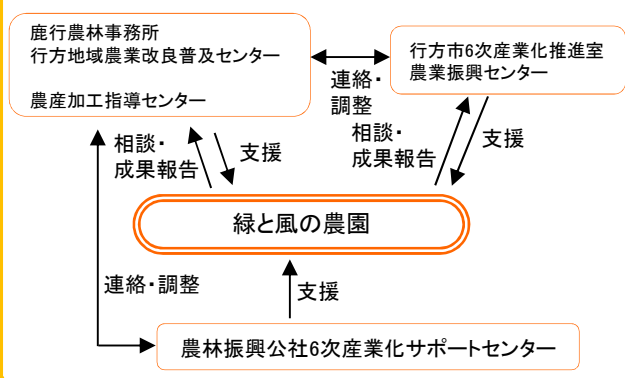
- 平成30年11月20日～22日糎作り研修会

農園加工所に新設された糎室で糎の試作を実施しました。

6次産業化プランナーの本橋氏の指導で、農園の特別栽培米コシヒカリを使った糎作りを行いました。農園の糎担当者を含む3名が糎作りの重要なポイント、そしてその糎を使った塩糎作りや旨塩糎の製法を学びました。



### 支援体制



### 事業者のひとこと

米とトマトをベースにした農産加工品の商品シリーズをネット販売により全国ブランド化して、栽培から加工・販売・観光まで一気通貫で対応できる農園の6次産業化の基盤を完成させます。

農園の6次産業化は全ての農家ができるとは限りませんが、当農園のような平均的な規模の農家が家内工業で次の世代を担う子供たちの協力により達成できた農業形態の1つの事例として、地域の若い世代に本手法の先進性と魅力を伝えることができると考えています。

## 松生産者が開催する松飾りギャラリー、ワークショップ ～“全日花菜”の取組み～

### 事業者情報



事業主体名 全日花菜  
代表者名 塩入 定勝  
活動地域 鹿嶋市  
経営概要 松の生産  
活動内容

- 松の需要拡大  
① 松の露地栽培  
② 松飾り製作体験ワークショップ  
③ 松飾り展示即売会

### 取組概要

松飾りのギャラリー展示やワークショップの都内での開催を契機とした、若い世代をターゲットとする松の需要拡大の取組み



華道の家元でもある経験を活かし、華道や現代的なアレンジなどにも適した松を、時間を掛け、こだわりを持って生産しています。取組みでは、都内にて松飾りを創るワークショップと、ギャラリー展示、即売会を開催し、一人暮らしの若い世代のライフスタイルに合うような松飾りを提案します。併せて、生産者から松飾りの文化、松生産の面白さ、大変さなど幅広い情報を発信することで、松の需要拡大につながります。

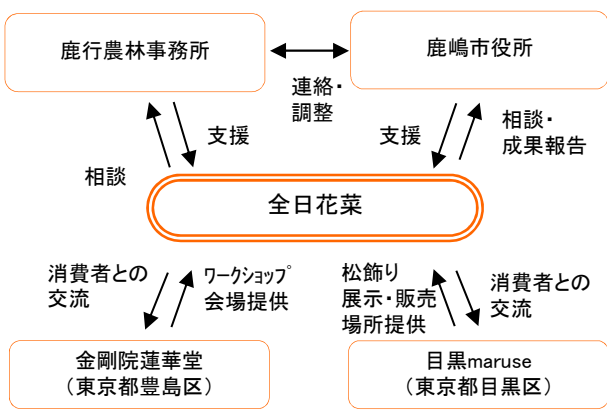
ワークショップでは、フラワーアーティストを講師に招き、松飾り製作体験を行います。今まで松飾りに馴染みのなかった若年層に、体験を通して伝統文化に触れる機会を創出します。

### 実施状況

#### 正月向け松飾りのワークショップと展示即売会を実施！

全日花菜では、需要拡大のため、12月23日に「松飾り創作体験ができるワークショップ」と、12月15日～24日まで「気に入った展示作品を購入できる即売会」を開催しました。

### 支援体制



#### ワークショップ

都内外から38名の来客があり、種から切り枝松になるまでの「花育」と、松飾りを飾る「云われ」等を学びながら子供から大人まで楽しみました。右下の写真は、今回のワークショップで独創的な作品が生まれた時のものです。

#### 展示即売会

集客力が高い都内のギャラリーで、種から6～7年程度かけて作られる希少な根引松を使用した様々な作品を観賞・購入できる場を設け、伝統文化に直接触れてもらいました。左上の写真は、その時の様子です。

#### 今後の展望

このようなイベントは継続して開催していき、また次年度は様々なサイズの松飾りを展開し、少しずつファンを増やしていきたい、とのことでした。



### 事業者のひとこと

日本の伝統的な松飾りは、近年ライフスタイル等の変化により、飾る「云われ」や「伝統」の継承が薄れつつあります。今後も幅広い世代に文化を伝えるべく、現代の人に手にとってもらえるような松飾りを展開し、需要の裾野を広めていききっかけを作りたいと考えております。



## 環境データ管理によるみつばの品質向上を目指して ～“(株)みずは”の取組～

### 事業者情報



事業主体名 株式会社 みずは  
 代表者名 柳澤 浩二  
 活動地域 土浦市  
 経営概要 みつば(水耕栽培) 66a  
 活動内容 JA水郷つくば(旧JA土浦)施設園芸水耕みつば部会の一員として、みつばの水耕栽培に取り組んでいる。東京、神奈川を中心に『天の川みつば』のブランド名で糸みつばの出荷を行う。

### 取組概要

みつば栽培における加湿設備及び環境測定装置の導入による、生産性と品質の向上に向けた取組



加湿設備(細霧ミスト)の設置により、夏季の高温や冬季の乾燥などの環境ストレスが軽減され、出荷ロスや傷みの低減を図ります。同時に、植付けから出荷までの生育期間短縮を図って年間の作付回数を増やし、生産量の増加を目指します。

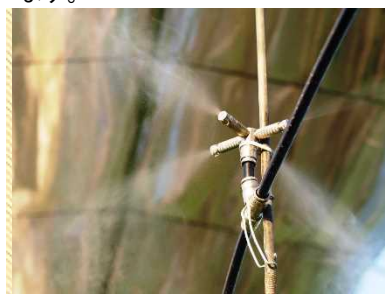
また、温度や湿度、二酸化炭素濃度の測定機器を設置することで、パソコンやスマートフォンでハウス内の環境が随時確認できます。これまで葉物栽培の実用レベルのデータはほとんど存在しませんが、今回導入した装置による測定値は、積算温度や平均温度など生育の目安となるデータとして利用できるため、今後の栽培管理に生かすことができます。

### 実施状況

- 平成30年11月

#### 加湿設備と環境測定装置の設置

加湿設備と環境測定装置を設置しました。(写真1)  
 湿度等の環境データを随時チェックし、ハウス内の環境管理がこれまでより精密にできるようになりました。(写真2)  
 今後、みつばの生育に最適な湿度と気温条件を検証していきます。

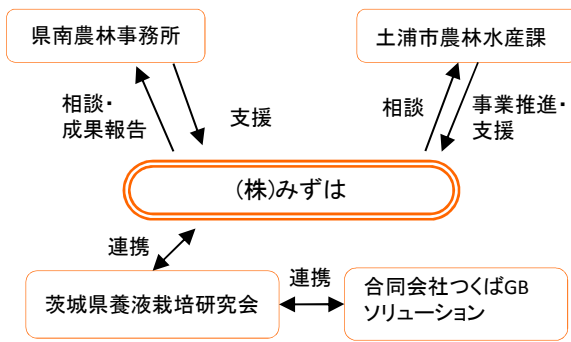


(写真1)  
ミスト噴射の様子

(写真2)  
スマートフォンを用いた遠隔管理の様子



### 支援体制



### 事業者のひとこと

これまで、葉物の水耕栽培に係る実用レベルのデータはほとんど存在せず、栽培環境の管理は勘や経験に頼らざるを得なかったところですが、実証データを管理・蓄積し、農業者同士で情報共有することで、経験が浅くとも最適条件化での栽培をすることができると考えています。

これからは、環境データ管理による生産量の増加、規模拡大を目指し、同時に従業員がより働きやすい職場環境をつくっていきたいと思います。

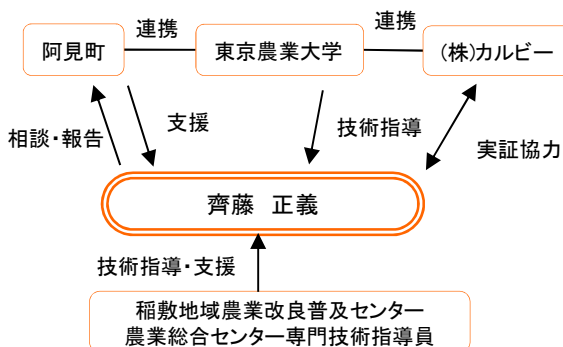
## 機械化一貫体系によるじゃがいも大規模経営の確立 を目指して ～齊藤正義さんの取組～

### 事業者情報



事業主体名 齊藤 正義  
活動地域 阿見町  
経営概要 じゃがいも 1.5ha  
そば 35ha  
活動内容 じゃがいも、そばを中心に栽培。  
農業者の減少と高齢化により畑の耕作放棄地が増える中、地域の畑を借り受け、機械化によって規模拡大を図っています。  
そばについては、汎用コンバインの導入により35haまで規模拡大し、阿見町産そば全体の65%を栽培しています。

### 支援体制



### 事業者のひとこと

ポテトハーベスター導入により、作業時間の短縮を期待しています。次年度は、収量増加とA品率向上に向けた土づくりの取組とあわせて、機械導入により、そばとジャガイモの輪作体系に応じた栽培面積の拡大を図ります。  
ジャガイモの契約栽培により、安定した収入を確保することで農業経営の安定化を図りながら、将来の法人化を見ずえ、後継者の育成にも力を入れていきたいです。

### 取組概要

ポテトハーベスターの導入及び  
土壌診断書に基づく土づくりによる  
じゃがいも機械化一貫体系の  
確立に向けた取組



阿見町と東京農業大学との産学官連携事業を活用して、土壌診断に基づいた施肥設計に取り組み、反収3.5トンを目指した実証試験を行います。

先進地であるJA水戸茨城町加工馬鈴薯部会を訪問し、じゃがいも機械化一貫体系の取組について研修を行います。

ポテトハーベスターの導入によって、栽培面積を拡大することが可能になり、阿見町の耕作放棄地を未然に防ぐことができます。

### 実施状況

- 平成30年8月

#### ポテトハーベスターの導入

ポテトハーベスターの導入を行いました。

今年度は小規模な範囲で実施しました。

来年度は圃場での収穫作業になり、範囲が大きくなったときに作業時間がどれくらいかかるか、効率よく作業を進めるために現場作業に改善すべきところはないかなど、さらに検討していきたいと考えています。



導入したポテトハーベスター



## 新品目導入による収益性向上と農業研修機関としてのPR強化 ～“(株)菊地農園塾”の取組み～

### 事業者情報



事業主体名 株式会社 菊地農園塾  
 代表者名 菊地 康等  
 活動地域 常総市  
 経営概要 レタス 30ha キャベツ 10ha  
 ネギ 2ha ズッキーニ 1ha  
 その他 0.3ha  
 活動内容 ①農産物の生産・販売  
 ②農産物の集荷及び販売あっせん業務  
 ③新規就農希望者の受入・育成  
 ④生産技術及び経営管理の教育指導・研修所の運営

### 取組概要

周年出荷可能な新品目（青ネギ）の導入による収益性向上、ホームページのQRコード入りパッケージ導入による販路拡大・年間雇用モデルの確立



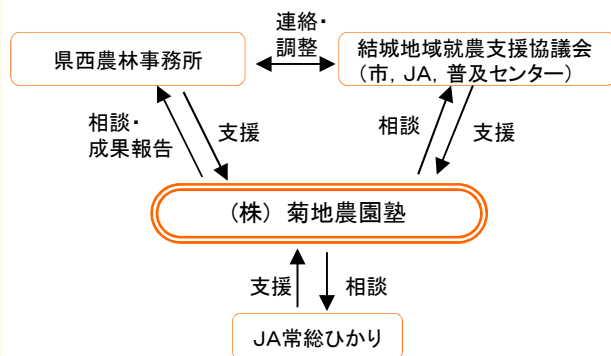
菊地農園塾では2004年から、独立就農を希望する方を研修生として雇用し、栽培技術や経営手法を教えています。研修生を多数受け入れるにあたっては周年的に売上を確保する必要があります。そこで、周年栽培が可能で、実需者からの需要が見込める青ネギを新品目として導入することとしました。また、青ネギの包装フィルムに(株)菊地農園塾のQRコードをプリントして、消費者に対する農場のPRと新規就農者（雇用・独立希望者）の募集を行うこととしました。独立希望者に対しては、栽培技術や経営手法の伝授のみにとどまらず、研修終了後の農地や販路の確保などの支援も行い、産地の担い手確保・育成に貢献したいと考えています。

### 実施状況

- 平成30年7月 青ネギの生産(1ha)を開始しました。
- 平成31年1月 包装機を導入しました。

平成31年5月から直売所やスーパー等でQRコードをプリントしたフィルムで包装した青ネギを販売予定です。多くの消費者の目にとまり、やる気ある新規就農希望者が集まることを期待しています。

### 支援体制



### 事業者のひとこと

仕事と趣味の両立ができるバランス農業を目指しています!!  
 研修生一人一人が明るく楽しく、生きがいをもって働ける環境づくりに取り組み、一人でも多くの後継者をつくることで、次世代につなぐ農業の未来を明るくしていきたいと思ひます。

詳しい情報は、<http://kikuchinouenjyuku.com> ⇒



## 経営の安定化・所得向上に向けた自社米のブランド化 ～“(株)中田農園”の取組み～

### 事業者情報



事業主体名 株式会社 中田農園  
代表者名 中田 伸一  
活動地域 坂東市  
経営概要 水稲 46ha  
そば 57ha  
麦 57ha  
活動内容 ①農産物の生産・販売  
②農作業の受託

### 取組概要

法人化を契機とした経営理念の明確化、自社HPの作成と自社米パッケージデザインの製作によるブランド化の取組



中田農園では、土づくりにこだわり、特別栽培米の基準で米づくりを行っており、経営の安定化・所得の向上を図るため、直接販売の割合を増やしたいと考えています。

また、取引の信用力を向上させるため平成30年10月に法人化し、それを契機に、経営理念を明確化し、自社米の価値を広く発信するためホームページを作成することとしました。ホームページは、農園のプロモーションビデオなど動画コンテンツを充実させたり、SNSと連動させたりするなど、日々の営農状況や商品ができるまでのストーリーを消費者に伝えられるよう工夫していきます。

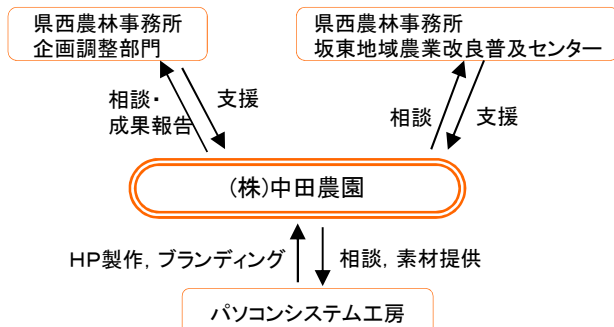
さらに、米の直接販売を行う際に使用するパッケージデザインも新たに製作し、中田農園のブランド化に取組みます。将来的には、米だけでなく、そば等自社商品のラインナップを増やしていきたいと考えています。

### 実施状況

- 平成31年2月 ホームページを公開しました。
- 平成31年3月 米の新パッケージが出来上がりました。

平成31年3月から新パッケージでの米の販売を予定しています。今後、ホームページを使って継続的に中田農園やその商品に関する情報を発信していくことで、新たな顧客確保につなげていきます。

### 支援体制



### 事業者のひとこと

“土づくり”にこだわる中田農園の米を全国的なブランドにするため、ホームページやパッケージデザインをプロのデザイナーの方々と作り上げました。その過程で、中田農園の理念や強みを再認識することができました。ホームページを通じて、中田農園のブランド価値を発信し、ネット販売など直接販売を拡大していきます。将来的には、そばの販売も行い、茨城産農産物の魅力を発信していきます!!

詳しい情報は <http://nakada-farm.com> ⇒

